

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 すぎなみき会	代表者	峯山敏正	法人・ 事業所 の特徴	利用される方が住み慣れた地域で馴染みの方や地域の方との交流、地域活動への参加を図りつつ、利用される方の心身の状況、希望及びその置かれている環境を考慮し、「通いサービス」、「訪問サービス」、及び「宿泊サービス」を柔軟に組み合わせることにより、心身機能の維持、生活機能の向上や居宅において、「その人らしく」安心して日常生活を営むことが出来るように支援します。
事業所名	小規模多機能型居宅 介護みつみねの郷	管理者	松崎悟		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	人	人	人	1人	人	4人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	社会資源や制度については、資料を通しての個別学習を継続していきます。ご家族と連携を取り、状況に合わせた対応をしていきます。(データ交換、付き添いなど)	コロナウィルスの対応に追われ、個別学習ができない時もあった。	様式に基づいて対応することができている。 コロナの感染状況もあり、できないこともあった。	個別学習を促すために、事業所からも情報提供し、個別学習が進む雰囲気にしていきたい。
B. 事業所のしつらえ・環境	4月の運営推進会議では、施設見学会を継続していきます。家族や見学者に施設案内や説明を行います。	コロナウィルス感染症の関係もあり、施設見学会は実施できなかった。その代わりに、広報誌の発行を継続することで代替した。	コロナの状況を踏まえ、今までの取り組みを再開してほしい。	感染状況をみながら、施設見学や案内をしていく。また、施設の雰囲気がわかるように広報活動を行っていく。
C. 事業所と地域のかかわり	職場体験や寺尾小学校との交流など地域行事やイベントへの参加を継続していきます。新しいことにもチャレンジし継続していきます。	感染状況のこともあり、実施できなかった。また、地域のイベントも実施がなかった。	コロナの状況が改善したら、再開してほしい。 感染の兼ね合いもあったので難しかったのではと感じた	コロナの状況を確認しながら、地域の方との交流を楽しめる機会を設けます。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	施設広報誌発行を継続していきます。利用者様以外の地域の方にも、頼りにしていただける事業所にしていきます。	地域広報誌は継続して発行することができている。 内容についても、職員間で協力して作成することができている。	広報誌発行により、地域の方へのPRにつながっている。	施設広報誌発行を継続していきます。利用者様以外の地域の方にも、頼りにしていただける事業所にしていきます。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議で、毎回一つずつテーマを取り上げていけるよう計画していきます	コロナの関係もあり、急遽中止することもあったが、毎回テーマをきめて開催することができている。	地域の課題について取り組んでほしい。 一人暮らし世帯が多いので、時々相談にのってほしい。	運営推進会議で、毎回一つずつテーマを取り上げていけるよう計画していきます。

F. 事業所の 防災・災害対策	定期的な防災訓練の実施、災害時での施設機能の提供を継続していきます。	防火管理者を新たに1名育成し、職員の底上げをおこなった。	今後も継続してほしい。 体の弱い人が多いので、家事をなるべく起こさない取り組みを行ってほしい。	定期的な防災訓練の実施、情報発信を継続していきます。
--------------------	------------------------------------	------------------------------	--	----------------------------